

石巻復興 NEWS

石巻専修大学経営学部 丸岡ゼミ 平成 27 年 1 月 31 日発行 第 36 号

南三陸町モニターツアー

12 月 13 日、石巻市から車で約 40 分の宮城県南三陸町で、東洋学園大学と石巻専修大学約 20 名が合同モニターツアーに参加しました。(一社) みやぎ大崎観光公社の企画・準備による、南三陸町への観光振興を図るための大学生の意見を聞く試みでした。慶應義塾大学名誉教授の香川敏幸先生も同行されました。

南三陸町での体験プログラムは、志津川中学校にある避難階段を登る体験と、志津川にある山の林業体験でした。防災訓練の体験ツアー化の可能性と、林業体験のツアー化の可能性について意見を聞く趣旨でした。林業体験は株式会社佐久が協力しています。

昼食はホテル観洋、夕食・宿泊は平成の森でいただき、大学生と南三陸町観光協会との意見交換会「ほえ〜るカフェ」(泰松範行東洋学園大学准教授司会) も行いました。翌日は登米市で同様のモニターツアーを行いました。今号では南三陸町の学生の感想をご報告します。学生に良い体験の機会をくださった関係者に感謝します。

志津川中学校前階段での避難訓練

志津川中学校は高台にあり、震災の津波の際に町民の避難場所になりました。避難階段を登ってみる体験では、実際に階段を登ることにより感じるものがたくさんありました。一番上まで 2 分ぐらいの時間がかかり、上までの避難は大変でした。野球部に所属して日々運動をしている私たちでも楽ではなかったので、お年寄りの方はさらに時間と体への負担がかかると感じました。

(涌井翔太)

志津川中学校から見る景色は震災の際に報道されていた場所でした。南三陸町の震災前の映像を見ていたので実際にそこから見てみると海沿いにあったはずの団地がなく草ばかりの光景が広がっていました。とくに線路が津波で流され、所々にその後が残っていたのが印象に残っています。震災から 4 年以上たったのに実際に被災地に行ってみると全然と言っていいくらい復興は進んでいないと感じました。(大瀧裕也)

林業 (WOOD JOB) 体験

南三陸町の林業体験ツアーでは、木が育ちやすい森の環境づくりを行いました。山にはただ木を植えればよいのではないそうです。いい山は、木々に太陽の日が当たるよう間隔が取られており、木の下にも草が生え、木と下草の根で地滑りが起きにくいのだそうです。

説明の後に 3 班に分かれて木の伐採体験を行いました。

自分たちで木を切る前の伐採の実演で、楽しそうだなと思いました。また班ごとの作業で知らない人とコミュニケーションを取り、協力することができました。

このモニター企画に参加したことによって林業という仕事とその取り組みを学ぶことができました。南三陸町での林業体験は、私はツアーになると感じました。

参加して林業について多くを学び、これはよい学習機会になると感じました。最初はこの活動に興味を持っていませんでしたが、参加してその魅力がわかりました。学校や新入社員などをターゲットとしたならばもっと参加者が増えると思いました。

まず南三陸町に来てもらい、現地の人と話をすることで、またその人に会うために来る人がいると思います。この町には松島のように見て楽しむ観光ではなく、体験中心のツアーがあっていると思いました。(涌井翔太)

WOOD JOB 体験とは間伐によりいい山といい樹木育てることを目的とする体験ツアーです。木を切ることがいい山といい樹木を作ることにつながる理由を教えてくださいました。山に木が生えすぎるとほかの植物にも日光が当たらず悪影響が出るためです。また、木の枝と根っ子の成長が比例しており、枝同士がぶつくと根も育たず他の木の成長を妨げるためです。

東洋学園大学の人たちと混ざり 5 人グループに分かれて実際に木を切る体験を行いました。まず、指導者が実際に木を切り倒してみせてくれました。他の木に当たらないように方向を調整して切る姿は初めて見るもので、凄いなと思いました。グループごとに指導者が手ノコという小さなノコギリで木を切らせて見せてくれました。これは林業の基本の道具だそうです。木は最初に斜めに切り方向を調整しました。木を倒す方向を相談するうちに自然と東洋学園大学のみなさんともコミュニケーションがとれ、木を切るスピードを競い、雑談する関係になっていました。切った木は機械で山の下に運び、様々な加工物にするそうです。

この WOOD JOB は観光の体験ツアーにしたらいえなと思います。いろいろな人が南三陸に来てもらうことが復興にもつながると思います。また現状を見れば支援の必要がわかると思うので、観光客が来たいと思うものを考える必要性を感じました。(大瀧裕也)

私は足の骨折のため林業体験には参加せず車で待っていましたが、林業体験の効果はよくわかりました。みんなははじめ「寒いから嫌だ」「めんどくさい」と言っていたのですが、帰ってきたときの言葉は「楽しかった」「やってよかった」など、満足感に満ちていました。私も体験してみたかったと思いました。

しかし、このツアーに宮城県内を含めて、全国の方々が実際に参加をするかは厳しいと感じました。やはり、南三陸に行くのであれば、松島や塩竈などといった有名な観光地に人は流れると思います。実際に東京から来た東洋学園大学の方と意見交換会をした際には、今回はこの様なきっかけがあったから宮城・南三陸でのツアーに参加をしたとの声もありました。

本当に来たいと思えるために、南三陸に良いものがあると胸を張れるようにしなければと感じました。

体験価値：大人 1000 円 子供 800 円 (三國翼)

復元船サンファン号のライトアップ

去る12月12日、石巻市渡波の慶長使節船ミュージアムの復元船を光で彩る「サン・ファン・イルミネーションツリー2014」が始まりました。サン・ファン号とは、ヨーロッパに向かう支倉常長らが乗船した巨大なスペイン風ガレオン船です。一昨年は慶長遣欧使節出帆400年という記念の年でした。

このイベントは石巻の冬の風物詩です。寒い夜中、家族連れや高齢の方、カップルなどがイルミネーションを見に訪れます。約1万個の発光ダイオード(LED)が船を彩り、クリスマスツリーのような飾り付けが施されています。金色に輝く復元船サンファン号は夜の暗い海に映え、幻想的で華麗です。

このイルミネーションは31日まで開催しており、点灯は午後4時30分頃から消灯は午後8時となっています。点灯時間はサンファン館の開館時間後のため入館はできません。そのためこれを鑑賞する際は、少し上のサン・ファン広場から眺める形です。

しかし、今月23日にライトアップされたサンファン号を目前にできる夜間特別開館が行われます。時間は午後4時から午後7時30分までです(サンファン館より)。普段の見下ろす角度とは違う臨場感が味わえると思います。また、サンファン館はその他にもシンポジウムの開催、近隣の小中高生の出し物、名産品を提供するサンファン祭りなど、1年を通じ多数のイベントを開催しています。

このイルミネーションをもっと多くの人に知ってもらうことが重要だと感じました。石巻だけでなく全国の人々にも認知してもらい、訪問客が増えれば、また石巻の復興にも繋がると思いました。

(亀山清太)



石巻専修大学で成人式

1月11日、石巻専修大学で成人式が行われました。今年、成人を迎えた男性454人、女性433人の計887人(『河北新報』)が体育館に集まり、賑わいをみせました。女性は晴れ着に身を包み、男性はスーツ姿に混じって袴を着た人もあり、式は華やかな雰囲気になりました。

以前、石巻市の成人式は石巻市民会館で行われていましたが、東日本大震災の影響で使われなくなったため、2012年から石巻専修大学の体育館に場所を移しました。式は石巻シンフォニックウインドアンサンブルの演奏に続き、亀山紘石巻市長が「どんな時でも自分の将来像をしっかりとイメージし、揺るぎない信念と決意で進んでもらいたい」と新成人を激励しました。

新成人代表の本学理工学部2年の佐藤秀作さんが決意と周囲への感謝を述べました。アトラクションでは、中学校時の恩師達からのビデオメッセージが上映され、皆思い出にひたりました。衆議院議員の安住淳さんや同議院の勝沼栄明さんらの祝辞の他、式終盤には、ロンドンオリンピックボクシング銅メダリストの清水聡選手とパラリンピックで日本人最多メダル獲得の水泳の河合純一選手がサプライズ登場し、新成人を激励しました。

私自身も成人式に臨み、大人としての自覚を持って日々を送ろうと思いました。そして、石巻に何らかの形でたずさわり、復興の力になろうと思いました。また、成人式の11日は東日本大震災から1年10ヶ月の節目で、震災で亡くなった同級生達の方まで一生懸命頑張ろうという気持ちが芽生えました。

(亀山清太)

再開される仙石線、石巻線

2011年、東日本大震災で大きな被害を受けたJR石巻線、仙石線は今年、全線で運転再開します(『河北新報』1月3日)。石巻線は休止していた浦宿～女川間の開通により小牛田～女川間の44.7キロがつながります。仙石線はあおば通～石巻間が6月までの再開予定で、東北線への乗り入れも始まります。

東日本旅客鉄道株式会社の仙台支社では浦宿～女川間については、「まちづくりと一体となった復旧」を進めていると発表しました。女川町が計画する駅周辺の「まちびらき」に合わせて2015年3月21日に石巻線の全線で運転が再開されます。

仙台～石巻間を運行する仙石線はいままでは松島海岸～矢本間が列車の代わりに代行バスが運転されていました。また、矢本駅から石巻駅までを列車で運行していました。そのため、利便性の低さから石巻駅行きの仙石線を利用する客は少なくなりました。

今回の石巻線の全線再開により、仙台方面～石巻間の利用客も増え、石巻という地自体に足を運ぶ人が増えるはずです。石巻市内のショッピング施設や名所などを中心とした場所に人が集まり、買い物をすることで雇用創出と地域の経済の発展につながると思います。駅周辺の地域から石巻ならではの地域の特色を出せば、さらに新たな地域の発展になると思います。

(澁谷悠杜)